

令和7年度良好な水環境保全・活用モデル事業

コウノトリの新たな生息地となる
水環境の創出と活用
報告書

2026年2月



認定NPO法人

とくしまコウノトリ基金

I. 地域の概要～地域の特徴と活動の背景～	2 p
II. モデル事業の実施内容	5 p
III. 成果と今後の課題・展望	1 2 p



コウノトリを見守る親子

I. 地域の概要

～地域の特徴と活動の背景～

島の水環境と美しい農村景観



地理院地図(電子国土WEB)を加工して作成



- 徳島県鳴門市の島田島は、瀬戸内海国立公園の東端に位置し、渦潮で有名な鳴門海峡に面している小さな島
- 観潮船や大塚国際美術館、リゾートホテルで賑わうエリアから車で10分の位置ながら、どこからも見えない静かな小集落が活動地域
- 森・里・川（水路）・海のつながりが1kmほどの範囲で完結
- 降水量が少ない瀬戸内式気候ながら、巧みな利水技術と努力によって、古くから水田稲作が行われてきた。
- 水田と水路、ため池からなる水環境は、美しい景観と、ニホンカガエルやセトウチサンショウウオ、トンボ類、水鳥などの生息地になっている
- 鳴門海峡一帯は渡り鳥のフライウェイに位置しているため、タカ類をはじめ多くの鳥類の渡りが見られ、最近では本州と四国を行き来するコウノトリが飛来するようになり始めている

- 活動エリアの中心である大島田地区は、20戸（50人）にまで過疎化が進み、農地の半分が耕作放棄地になっている
- 住民有志は小水路を整備・管理するなど水環境の維持につとめ、耕作放棄地の一部に古代蓮を導入するなど、ささやかな賑わいづくりに努力している
- 一方、鳴門市南西部を中心としたレンコンの栽培地帯は、全国でトップクラスのコウノトリの飛来地となっているが、とくしまコウノトリ基金は、生息環境の多様性が重要と考え、2021年に島田島でのコウノトリの生息地づくりを地域に提案
- 2022年、大島田地区の農家からなる「島田島にコウノトリを呼ぶ会」が発足。
- さらに地域に「多面的機能支払い交付金」の活用を提案し、2025年に「大島田地区資源保全協議会」が発足
- これら地域の組織を核として、農村景観の復元と水田農業の維持、コウノトリの生息地づくりを目的に、耕作放棄地を豊かな水環境に再生する活動などを続けている



住民が育てている古代蓮



50年前からの耕作放棄地



水環境の創出（開放水面が出現）



開放水面に飛来したコウノトリ4羽

Ⅱ. モデル事業の実施内容

水環境の保全と
ほどよい賑わいづくり

■ 地域の想い

- ・かつての水田のような環境に戻したい
「わしの目の黒い内に耕作放棄地（ヨシ原）をなんとかしたい！」
- ・コウノトリに来て欲しい
- ・ある程度の賑わいもほしい

■ とくしまコウノトリ基金の想い

- ・コウノトリの新たな生息地をつくりたい
- ・県内にまだ1カ所しかない自然共生サイトに認定され、地域の価値を高めたい
- ・環境学習、生き物の調査や研究のフィールドとして活用したい



- 耕作放棄地を豊かな水環境に再生し、ビオトープを整備する
- 自然共生サイトに認定申請する
- 魅力ある環境を活用し、ほど良い賑わいを創出する

→点在する地域資源（生物、歴史、文化など）と地域活動を魅せる化する（島田島まるごと博物館）

水環境保全・活用の共創体制


企画・調整／活動主体



認定NPO法人

とくしまコウノトリ基金

島内の活動主体

島田島にコウノトリを呼ぶ会 大島田地区資源保全協議会 島田島活性化プロジェクト
島田島自治会 地域住民 キャンプ場トナル島田 笑和の里  楽園 島あい研究所

連携

保全 活用

連携

吉備国際大学 徳島大学
日本生態系協会 徳島希少鳥類研究会
徳島県植物誌研究会 阿波魚類研究会
徳島県サステナブル社会推進課
鳴門市環境政策課

アオアヲ ナルトリゾート イーストとくしまDMO
徳島サステナブル社会推進センター
鳴門市うずしお観光協会 徳島県立博物館
徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系
ネットワーク推進協議会

モデル事業実施スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
①水環境の整備										
開放水面づくり	■					■				
観察路、管理道の整備			■				■			
②自然共生サイト申請準備										
勉強会			7/16						1/30	
生物調査	■									
③水環境の活用										
勉強会						10/10				
観察会				8/17	9/28				1/10	

トンボ
観察会

秋のタカ渡り
観察会

地層と化石
観察会

■ 実施内容

- ・耕作放棄地を再生整備しているビオトープ2.5haの開放水面を確保するために、ガマを刈り取り、火入れ。その後、トラクターで耕耘する予定だったが異常な少雨でビオトープに水が堪らないため、2月上旬時点では未実施

- ・少雨に備えて水生動物のすみかとなりガマが生えにくい深場を道沿いにつくりながら、管理道兼観察路を整備

- ・ビオトープ内に、ニホンアカガエルの産卵場を初めて整備

- ・ビオトープ以外でも耕作放棄地約1haのヨシを刈り取り火入れし、景観形成作物がヨシなど高茎草本の生育を抑制できるか確認するために、初めて菜の花を播種

■ 実施成果

- ・ビオトープに開放水面を3割確保する目標だったが、ガマに覆われ1割程度しか確保できなかった。次年度はガマの生育抑制方法を検討する

- ・管理道沿いに作った深場で魚が増え、コウノトリが採餌場として利用

- ・菜の花は播種適期を逃したが、順調に生育中



管理道沿いの深場作り



ニホンアカガエルの産卵場作り



整備した深場(左)と水路(右)で採餌するコウノトリ

■ 実施内容

・勉強会の実施（1回目）

とき：7月16日 会場：鳴門市役所

講師：環境省中国四国事務所秀田生物多様性保全企画官

内容：認定のしくみ、メリット、法改正等

参加者：対面33名、web9名

・勉強会の実施（2回目）

とき：1月30日 会場：鳴門市島田島 トナル島田

講師：環境省中国四国事務所山田自然環境調整専門官

内容：認定の事務手続き等 参加者：対面17名

■ 実施成果

- ・2回の勉強会により登録申請に必要な条件等が理解できた。
- ・特に、課題だった土地の取り扱いについてアドバイスを受け、解決の目処が立ったことから、令和8年中に申請手続きをする予定



勉強会(1回目)



勉強会(2回目)

■ 実施内容

- ・生物調査を鳥類、魚類、昆虫、両生類、植物の各専門家に委託し、令和7年5月から現地調査を実施。令和8年夏まで継続
- ・10月4日には、全部の班が合同で調査した

■ 実施成果

- ・生物調査は順調に進んでおり、データが集積できている

○これまでに確認できた種類（暫定）

鳥類25種、魚類5種、昆虫（集計中）、両生類5種、

植物119種（調査エリア内外の整理未了）

植物では県内初記録の種も発見された

- ・合同調査では調査員間の交流も行われた。昼食時には地域住民が地域の食材で調査班をねぎらってくれ、住民との交流もできた



生物調査(魚類班)



調査班を地元住民がねぎらう



ニホンアカガエル



ニホンウナギ



シオカラトンボを
獲ったヒクイナ

■ 実施内容

・水環境活用勉強会の実施（オンライン）

とき：10月10日 講師：岩浅大正大学准教授 内容：地域資源の再確認と活用の可能性など

■ 実施成果

- ・地域住民や大学ともに環境学習フィールドとしての活用の検討や新たな魅力の掘り起こしを始めた
- ・自然の中での教育や、トレイルランニングのコース整備の検討など、新たな動きが生まれつつある
- ・藍染め体験、原料藍づくりなどを検討し、地域の農家5戸を含む10戸ほどでタデ藍を試作することになった
- ・点在する地域資源（生物、歴史、文化など）と地域活動を魅せる化する、島田島まるごと博物館を検討することとした



地理院地図(電子国土WEB)を加工して作成

トレランコース整備の検討



自然の中の子どもの遊び場づくり



タデ藍の栽培講習会

事業内容③ 水環境の活用(2)

■ 実施内容

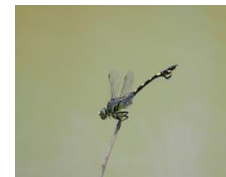
トンボ観察会

とき：8月17日（日） 参加費：1組1,000円 募集定員15名 参加者数：4組9名

室内で捕獲方法を説明した後、ビオトープで、ウスバキトンボ、オオシオカラトンボ、ギンヤンマなどを採集。室内に戻りトンボの同定や生態を解説した後、トンボは野外へ放した

■ 実施成果

参加者全員がトンボを数種ずつ捕獲できた。ビオトープの魅力を知ってもらえた参加者アンケートを実施。満足度は良好。参加費は1組1,000円が100%



コウノトリも舞いおる 島田島でトンボ観察！！

「古代」を意味する島田市島田島。そこでは、豊かな自然が残り、国の特別天然記念物であるコウノトリも舞い回ります。そんな自然豊かな島田島を舞台に、この夏、トンボ採り・観察会を開催します。夏休みの自由研究にもぴったり！是非、ご参加ください。

日時：2025年8月17日（日）10～12時 受付：9時30分～
小雨決行 ※雨天中止（中止の場合、前日(8月16日)に中止のご連絡をいたします）

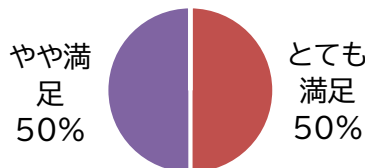
集合：tonaru SHIMADA（旧島田小学校・幼稚園）
鳴門市瀬戸町中島田字北田36 ※駐車場有
対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
定員：15名程（要申込・先着順）
持ち物：帽子、飲み物、歩きやすい靴等
参加費：1組（1家族）につき、1,000円
主催：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金
協力：アオアナナルトリゾート、tonaru SHIMADA

参加者にはトンボ図鑑をプレゼント！

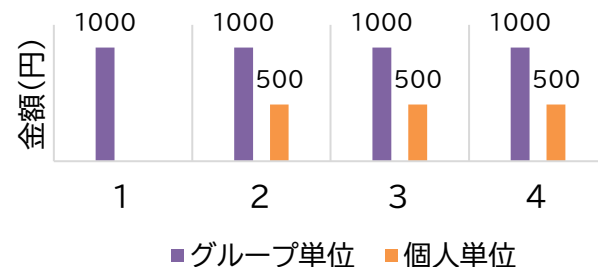
イベントのながれ・申込の詳細はチラシ裏面をご確認ください



[アンケート結果] ・満足度



・支払える参加費の上限



■ 実施内容

秋のタカ渡り観察会

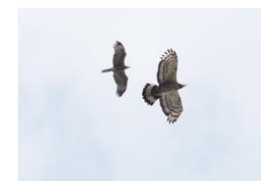
とき：9月28日（日） 参加費：1組2,000円 募集定員10名 参加者数：9名

展望台とカフェ屋上を使わせて頂いて実施。菓子と飲み物を楽しみながら、秋空を渡るタカ類を観察鳥を対象とした観察会では、初めての有料実施

■ 実施成果

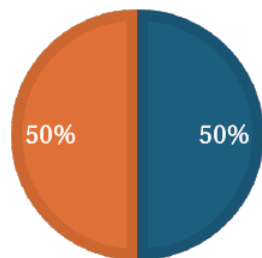
3時間半で、4種約200羽のタカ類の渡りを観察でき、本州から渡ってきたと思われるコウノトリ1羽も見ることができた。飲食付きということもあってか、有料実施も問題なく受け入れられた

アンケートを実施したところ、満足度は良好。参加費上限は3,000円。観察しつつ芋を焼いて食べるなどの楽しみを取り入れることの提案あり



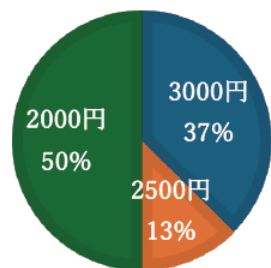
1 満足度

■ とても満足 ■ 満足



3 支払える参加費の上限

■ 3000円 ■ 2500円 ■ 2000円



事業内容③ 水環境の活用(4)

■ 実施内容

地層と化石観察会

とき：1月10日（土） 参加費：1組2,000円 募集定員15名 参加者数：27名

徳島県立博物館の学芸員を講師に迎え、海岸で地層とコダイアマモの化石を探したのち、ビオトープへ移動してアンモナイトの化石探しをした



コダイアマモと
呼ばれている
化石



■ 実施成果

天気に恵まれ、じっくりと地層と化石の観察ができた。化石のできるメカニズムとこの地域の地形の成り立ちを知ることができた

ビオトープでは、コウノトリの出迎えもあり、参加者は大喜びだったフィールドワークのあと、室内で焼き芋や地域の方が差し入れてくれたみかんなどを食べながら、学芸員の解説を楽しく聞いて学べた

参加者から「楽しかった」「またやってほしい」などの声が多く寄せられ、発信できる魅力の一つとして化石が活用できることがわかった



Ⅲ. 成果と今後の課題・展望

こんな小さな地域だからこそ、出来ること

■ 成果

■ 期待される波及効果

水環境の保全

耕作放棄地を湛水できる環境に復元し、水生動物が増えつつある



耕作放棄地の解消・活用手法のモデルとなる

コウノトリの滞在期間が長期化しつつある



コウノトリがいなかった場所での生息地づくりのモデルとなる

自然共生サイトの認定申請の準備が整った



自然共生サイトに認定されることで、企業等に認識され、継続的な保全に必要な資金やマンパワーなどの支援を受けやすくなる

水環境の活用

トンボ、タカの渡り、化石などの観察会が有料で実施できた



コウノトリやニホンアカガエルの観察会などの有料コンテンツづくりに繋げ、保全活動費の継続的な獲得ができる

大学生や子どもが環境学習、調査、自然遊びのフィールドとして利用し始めた



島の環境が一年を通して大学等に利用され、子どもの自然教育の拠点となる

島内で栽培したタデ藍を使った薬草染めの体験や製品づくりの「島あい」プロジェクトが開始した

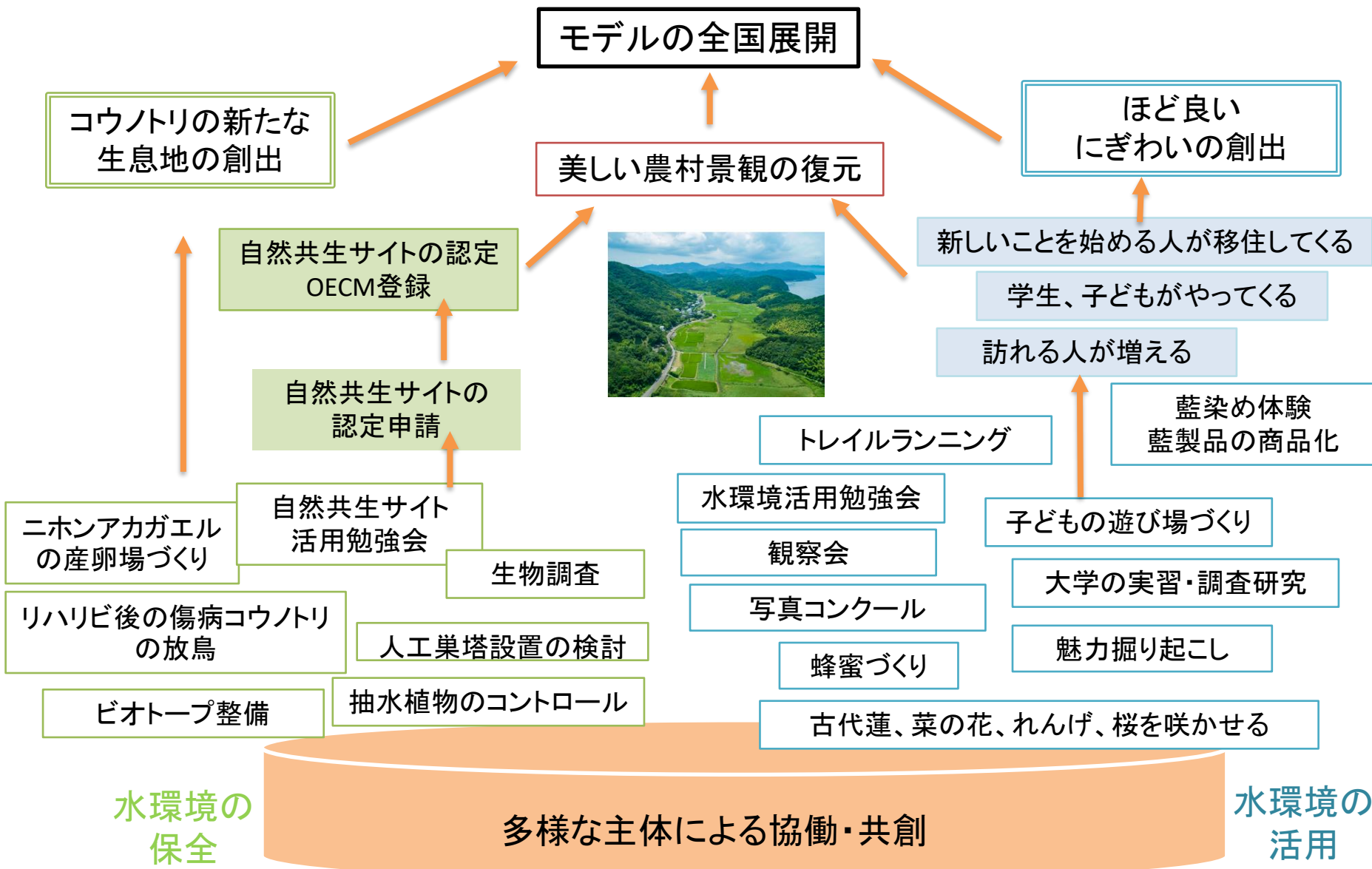


藍を使った商品づくりや交流が盛んになる

トレイルランニングのコース整備の検討が始まった



トレイルランニングの大会が行われ、県外からの参加者など、島田島への来訪者の多様性が高まる



■ 水環境の保全

○課題

- ・ガマの繁茂により、ビオトープの開放水面の確保が困難
- ・異常な少雨により、ビオトープの湛水状態を保つのが困難
- ・活動メンバーの高齢化により、作業に必要なマンパワーの不足懸念が増大
- ・自然共生サイトの認定申請に必要なノウハウは習得途上

○展望

- ・コウノトリは複数滞在しており、今後、滞在期間は伸びると思われる
- ・ガマの生育期間の春から夏にかけてトラクター耕耘を複数回実施することで、ガマの生育抑制技術の確立を目指す
- ・コウノトリの餌場確保のため、少雨で水不足の時でも水生動物が生息できるよう、重機を用いた深みの増設を継続する
- ・大学生の実習として除草作業等を実施することで、労力補完が期待できる
- ・自然共生サイト勉強会を踏まえて、対象エリアの土地所有権などを調査、調整し、令和8年度には認定申請を行う



春 除草し開放水面が出現



夏 ガマが覆い尽くす



晩秋 ガマを刈り取る



少雨のため湛水できず

■ 水環境の活用

○課題

- ・地域人口が極めて少なく、地域資源を活用できる人が少ない
- ・活動エリアに食事がとれる店がなく、近くにトイレがない
- ・人を呼び込むコンテンツづくりや情報発信が不十分

○展望

・様々な活動を継続することで、新しいことを始める人が移住し始め、地域住民に刺激を与えつつある。移住者、大学、地域住民が連携して新たな取り組みを始める

- ◆ 藍（島あい）製品の試作と藍染め体験を実施。住民が藍を栽培
- ◆ クラッカー、茶など、「島あい」ブランドを立ち上げ
- ◆ 子どもの自然体験のフィールドとして、雑木林を使った遊び場の整備
- ◆ 吉備国際大学の学生を受け入れ、ビオトープ整備、炭焼き体験、生き物調査
- ◆ トレラン、トレッキングのコース整備を進め、コースを使ったイベント実施を目指す
- ◆ 古代蓮の写真コンクールを実施
- ◆ 次年度は個々のイベントにストーリーを持たせ、生物、歴史、文化などを「まるごと博物館」的に地域の魅力を発信することを検討する
- ◆ 活動参加者や地域住民の憩いの場づくりを進め、食事やトイレ問題を検討



地域住民、移住者、大学で
地域資源さがし



「島あい」プロジェクトが始動